

AWS Certified Solutions Architect - Associate (SAA-C03) ↗

試験ガイドの概要

⑤ 試験の採点・結果報告と受験者向けの補足情報

⑤ 付録：試験に出題される可能性のある技術項目と試験範囲および範囲外のサービス一覧

⑤ 第4分野：コストを最適化したアーキテクチャの設計 –ストレージ、コンピューティング、データベース、ネットワークのコスト管理

⑥ 第3分野：高パフォーマンスなアーキテクチャの設計 –ストレージ、コンピューティング、データベース、ネットワーク設計

⑥ 試験の目的と対象者、試験形式の概要

⑤ 試験のコンテンツドメインと各ドメインの重み付け、および目的となる技能群

⑥ 第1分野：セキュアなアーキテクチャの設計 –タスクと必要な知識・スキル

⑤ 第2分野：弾力性に優れたアーキテクチャの設計 –スケーラビリティと高可用性の要件

試験の目的と対象者、試験形式の概要

SAA-C03 試験の目的、検証する能力、および対象受験者の要件を説明する

試験はソリューションアーキテクトの役割を担う個人を対象とし、AWS Well-Architected フレームワークに基づく設計能力を検証する。

受験者が達成すべきタスクは、ビジネス要件を満たす AWS サービス統合、セキュリティ・耐障害性・高性能・コスト最適化を実現するアーキテクチャ設計、既存ソリューションのレビューと改善判断である。

受験対象者には AWS サービスを用いたクラウドソリューション設計の実務経験が1年以上必要とされる。

試験は択一選択と複数選択の2種類の設問形式があり、合計でスコア対象の設問は50問、採点対象外の試験評価用設問が最大15問含まれることがある。

試験結果は合否判定で示され、換算スコアは100～1,000、合格ラインは720である。

試験のコンテンツドメインと各ドメインの重み付け、および目的となる技能群

試験は4つの主要分野に分かれ、それぞれの重みと主要タスクを示している

第1分野は「セキュアなアーキテクチャの設計」で採点対象コンテンツの約30%を占め、アクセス設計、ワークロードの保護、データセキュリティ管理を含む。

第2分野は「弾力性に優れたアーキテクチャの設計」で約26%を占め、スケーラビリティ、疎結合設計、高可用性・フォールトトレラント設計が主題である。

第3分野は「高パフォーマンスなアーキテクチャの設計」で約24%を占め、ストレージ、コンピューティング、データベース、ネットワーク、データ取り込みと変換の性能設計が含まれる。

第4分野は「コストを最適化したアーキテクチャの設計」で約20%を占め、ストレージ、コンピューティング、データベース、ネットワークにおけるコスト最適化が焦点である。

第1分野：セキュアなアーキテクチャの設計 – タスクと必要な知識・スキル

タスクステートメント 1.1 から 1.3 が示すアクセス制御、ワークロード保護、データセキュリティ管理の要件

タスク1.1 は AWS リソースへのセキュアなアクセス設計で、複数アカウントのアクセス制御、フェデレーションとアイデンティティ (IAM、AWS IAM Identity Center)、グローバルインフラストラクチャの理解、最小権限や責任共有モデルが対象知識である。

タスク1.1 に求められるスキルには MFA の適用、ユーザー・グループ・ロール・ポリシーを含む認証モデル設計、ロールベースのアクセスコントロール戦略設計、複数アカウントのセキュリティ戦略設計が含まれる。

タスク1.2 はセキュアなワークロードとアプリケーション設計で、アプリケーション設定と認証情報の保護、サービスエンドポイント、ネットワークトラフィック制御、DDoS や SQL インジェクションなど外部脅威の理解が対象知識である。

タスク1.2 に求められるスキルには VPC のセキュリティコンポーネント（セキュリティグループ、ルートテーブル、ネットワーク ACL 等）を用いた設計、ネットワークセグメンテーション戦略の決定、AWS セキュリティサービスの統合判断、クラウドと外部接続の保護設計がある。

タスク1.3 は適切なデータセキュリティ管理の判断で、データアクセスガバナンス、データ復旧、保持と分類、暗号化とキー管理が対象知識であり、KMS や ACM を用いた保管中・転送中の暗号化やキーアクセスポリシー実装などのスキルが求められる。

第2分野：弾力性に優れたアーキテクチャの設計－スケーラビリティと高可用性の要件

タスクステートメント 2.1 と 2.2 による疎結合設計と高可用性・フォールトトレラントの構築指針

タスク2.1はスケーラブルで疎結合なアーキテクチャ設計で、API 管理、マネージドサービスのユースケース、キャッシュ戦略、マイクロサービス設計、イベント駆動型設計、垂直および水平スケーリングの理解が対象知識である。

タスク2.1に求められるスキルには イベント駆動型・マイクロサービス・多層アーキテクチャの設計、コンポーネント別のスケーリング戦略の決定、疎結合のための AWS サービス選定、コンテナやサーバーレス適用判断が含まれる。

タスク2.2は高可用性・フォールトトレラントなアーキテクチャ設計で、グローバルインフラ (AZ、リージョン、Route 53)、災害対策 (DR) 戦略、分散設計パターン、フェイルオーバー戦略、イミュータブルインフラの概念、Service Quotas の考慮が対象知識である。

タスク2.2に求められるスキルには オートメーション戦略の決定、リージョン/ゾーン全体での可用性設計、メトリクスの特定と可用性設計、单一障害点の軽減、データ耐久性確保のためのバックアップ戦略選定が含まれる。

タスク3.1は高パフォーマンスでスケーラブルなストレージ選択で、ハイブリッドストレージ、S3/EFS/EBS のユースケースとストレージ特性を理解し、パフォーマンス要件に合うストレージと設定を決定するスキルが必要である。

タスク3.2 は高パフォーマンスで伸縮性があるコンピューティング設計で、Batch、EMR、Fargate などのサービスユースケース、分散コンピューティング概念、オートスケーリングやサーバーレスの適用を理解し、適切なコンピューティングオプションとサイズを選択するスキルが求められる。

タスク3.3 は高パフォーマンスなデータベース選択で、グローバルインフラの影響、キャッシュ戦略、データアクセスパターン、キャパシティープランニング、レプリケーションの理解が対象知識であり、リードレプリカ設定やデータベースエンジン/タイプの選定スキルが必要である。

タスク3.4 は高パフォーマンスなネットワークアーキテクチャで、CloudFront/Global Accelerator 等のエッジサービス、ネットワーク設計（サブネット層、ルーティング、IP 設計）、接続オプション（VPN、Direct Connect、PrivateLink）を理解し、スケーラブルなネットワークトポロジとロードバランシング戦略を決定するスキルが必要である。

タスク3.5 は高パフォーマンスなデータ取り込みと変換で、データ分析/可視化サービスのユースケース、取り込みパターン、データ転送・変換・ストリーミングサービスの理解が対象知識で、データレイイク構築、ストリーミング設計、転送ソリューションと処理コンピューティング選択のスキルが求められる。

タスクステートメント 3.1～3.5 による高性能を満たす各種ソリューション選択と設計手順

第3分野：高パフォーマンスなアーキテクチャの設計—ストレージ、コンピューティング、データベース、ネットワーク設計

タスク4.1はストレージのコスト最適化で、アクセスオプション、コスト管理ツール（Cost Explorer等）、ストレージサービスのユースケース、バックアップ戦略、データライフサイクル、階層化を理解し、最も費用対効果の高いストレージ戦略を設計するスキルが必要である。

タスク4.2はコンピューティングのコスト最適化で、購入オプション（スポット、リザーブド、Savings Plans）、インスタンスタイプ/ファミリー、ハイブリッドオプション、スケーリング戦略と使用率最適化を理解し、適切なスケーリング方法と費用対効果の高いサービスを選定するスキルが求められる。

タスク4.3はデータベースのコスト最適化で、コスト管理ツール、キャッシュ戦略、保持ポリシー、キャパシティープランニング、エンジンやタイプのユースケースを理解し、バックアップ/保持ポリシーや費用対効果の高いデータベースサービス選定を行うスキルが必要である。

タスク4.4はネットワークのコスト最適化で、NATゲートウェイや接続手段のコスト比較、ネットワーク転送コスト最小化、ルーティング設計、CDNとエッジの戦略を理解し、適切な接続設定と転送コスト削減策を実装するスキルが求められる。

タスクステートメント4.1～4.4によるコスト最適化のための知識と実装スキル

第4分野：コストを最適化したアーキテクチャの設計—ストレージ、コンピューティング、データベース、ネットワークのコスト管理

出題される可能性のある技術と概念には、コンピューティング、コスト管理、データベース、DR、高パフォーマンス、ガバナンス、マイクロサービス、移行、ネットワーク、回復性、セキュリティ、サーバーレス設計、ストレージなどが含まれる。

範囲内の AWS サービスと機能は分析、アプリ統合、コスト管理、コンピューティング、コンテナ、データベース、デベロッパーツール、フロントエンド、機械学習、マネジメントとガバナンス、移行、ネットワークとコンテンツ配信、セキュリティ／コンプライアンス、サーバーレス、ストレージなどのカテゴリ別に主要サービスが列挙されている。

範囲外のサービス群には CloudSearch、Lightsail、RDS on VMware、開発者ツール群、特定の ML/メディア/IoT/ゲーム/量子/ロボティクス/衛星サービス等が含まれ、これらは試験の対象外として明示されている。

付録のサービス一覧は網羅的ではなく変更される可能性があること、掲載順は重要度や重みを示すものではない旨が記載されている。

出題対象となる技術領域、試験範囲の AWS サービス一覧、および試験対象外のサービス群を提示する

付録：試験に出題される可能性のある技術項目と試験範囲および範囲外のサービス一覧

試験の採点・結果報告と受験者向け の補足情報

試験は合否判定方式で、換算スコアは100～1,000で表示され、合格スコアは720である。

試験には採点対象外（調査用）の設問が含まれることがあり、受験者にはどの問題が採点対象外か表示されない。

スコアレポートには分類表として各セクションの成績を示す情報が含まれる場合があり、補整スコアリングモデルを用いるためセクションごとの合否ラインは設定されず試験全体のスコアで合否を判断する。

試験の各セクションには重みが設定されており、セクションごとに割り当てられる設問数は異なる可能性があるため、分類表は受験者の得意・不得意を示す一般情報として解釈する必要がある。

スコア表示、合否基準、セクション別フィードバック、および採点対象外設問の扱いに関する説明